

# あうみネット



BIWA CHAN

淡海の市民活動・ネットワーク情報交流誌  
Collaboration Paper for Voluntary Network in Ohmi

●発行日 / 2009年9月1日 ●発行所 / (財) 淡海文化振興財団

No.

70

2009年  
9・10月号

特集●淡海トピックス

## 座談会「子育て支援を 市民の手で」

### ■NPOさぼーとぼけっと ①

市民活動のプレスリリース  
～その②～プレスリリース提出先

### ■市民団体活動紹介NPOのわっ ⑤

- 特定非営利活動法人滋賀県難病連絡協議会
- 特定非営利活動法人甲賀の環境・里山元気会
- 特定非営利活動法人旅するおさかなサポーター

### ■あうみネット★INFORMATION ⑦



### あまのじゃくくらぶ 2009

開催日●9月25日(金)、10月30日(金)など2010年3月まで毎月1回。

時間●10:00～13:00

場所●大津市長等公園、膳所の山辺(茶臼山公園より徒歩15分)、三井寺など

参加費 ●あまのじゃくくらぶの参加には、1家族500円の会員登録が必要です。

各回の参加費は、おとな1人500円(保険代含む、材料費別途)

連絡先●遊人里(ゆとり)グループ FAX: 077-563-5724 (金森)

E-mail: yutorigroup@yahoo.co.jp

未就学児とその保護者が、滋賀県大津市内の身近な公園や里山でいろんな生きものと遊び、五感で学ぶ、どきどきわくわくのイベントを実施しています。

活動は、2009年9月から毎月1回程度を予定しています。

詳細はメールかFAXでお問い合わせください。



### 第5回甲賀映画祭

日時・場所●

10月11日(日) あいこうか市民ホール

10月23日(金) 水口アレックスシネマ

10月24日(土)～25日(日) 碧水ホール

参加費●1回券前売800円、当日1,000円(子ども半額)

他に3枚セット券、フリーパスなど有り

連絡先●甲賀シネマパーティー (映画祭実行委員会) 事務局

TEL: 0748-63-2006 URL: <http://cinema.jp/>

甲賀市内外のボランティアが手づくりで開催する甲賀映画祭は今年で5回目。世代や地域を越えて、ココロの交流が生れる文化イベントです。新旧織り交ぜ映画祭ならではのラインアップ。ゲスト来場や、子どもたちが盛り上がるお楽しみ抽選会もありますよ! お楽しみに!



## 運営委員 VOICE

### 「私の市民活動との出会い」

赤澤清孝  
(NPO 法人ユースビジョン 代表)



私の市民活動との出会いは、大学時代の大学生協での活動です。学生向け情報誌の作成や、食堂の新メニューのコンテスト、リサイクル活動など、様々取り組みを行いました。特に印象に残っているのは、街灯をつけようというキャンペーンです。草津市に立命大が移転した直後、通学路に街灯がほとんどなく、自転車通学の学生が夜道で転倒するということが問題になっていました。そこで、学生有志で大学周辺の地図をつくり、学生たちに「危険」と思う場所をシールで投票してもらったのです。その反響は大きく、その後学内で街灯設置に向けた署名活動に発展。最終的には草津市への提案に結びつき、見事、街灯がつけました。身近な困りごとをみんなで共有し、力を合わせることで、学生でも地域を変えられるんだという気づきが、今の活動の原点になっています。

※運営委員は、市民の意見を当財団の運営に反映するため、公募も取り入れた委員を設置しています。

## おうみ未来塾 リレーエッセイ

### 「人と人をむすぶ未来塾」

7期生 伊藤 加代子(いとうかよこ)  
グループ：逢味(おうみ)おむすび隊

Ohmi Miraijyuku Relay Essay



グループ名の「逢味(おうみ)おむすび隊」とは「食」を通じての様々なむすびつきと「おむすび」をかけて付けられました。実は入塾の動機とは違うテーマを選んだのです。「食」は環境・教育などあらゆる分野とつながり、コミュニケーションの場で大きな役割を果たす身近で大切なテーマだと思ったからです。卒業後はメンバーの尽力で助成金を得て食育講座など企画してきました。活動自体は決して活発ではないのですが、今年度は新しいメンバーの企画により学校給食にかかわる活動が広がりました。また、この他に卒業生が代表のIT関係のNPO法人のメンバーにもなっています。それらの活動は今の仕事(社会教育指導員)にも役立っています。各分野に活躍する仲間がいる、それが未来塾の魅力です。

※おうみ未来塾は、地域の課題解決を実践する「地域プロデューサー」が育つ塾です。

## ●NPOさぼーとぼけっと●

あなたのNPO活動をサポートする情報をお届けします。

## NPO SUPPORT POCKET

### 市民活動のプレスリリース ～その②～プレスリリース提出先

前回は、「プレスリリース」の準備についてご紹介しました。今回は、プレスリリースの提出先についてご紹介します。

#### プレスリリースってなに？

イベントや講座など行事を開催する場合、滋賀県庁や市役所の記者クラブで、主要な新聞社、テレビ、ラジオなどに一度に資料提供することができます。県域全体へ広報したい場合は県庁記者クラブへ。各地域で広報したい場合は、各市役所の記者クラブへ資料提供します。

県庁記者クラブへ資料提供をしたい場合は、提供日前日までに25部を県庁広報課へ届けます。提出前に開催日時や会場などを確認し、問い合わせ先を忘れずに入れてください。

記者発表は、直接、記者へ内容を話すことができます。記者発表を希望する場合は、県庁広報課へ問い合わせてください。

**滋賀県庁広報課 TEL：077-528-3043**

各市役所の記者クラブは、各市役所の広報担当課が窓口になっています。開催される地域の市役所に問い合わせ、資料提供をしたいことを伝え、必要部数や受付時間などを確認して持って行きましょう。

その他に、地域情報をよく掲載している情報誌などにも資料提供できます。右表で、その一部をご紹介します。

#### プレスリリース提出の際の注意点

プレスリリースは、開催の1か月以上前に出すようにすると、紙面を作る作業の中で取り入れてもらいやすくなります。また、プレスリリースをしたからといって、必ず掲載してもらえないものでもありません。社会的なニーズに合っている内容か、話題になるものか、

など報道する側の視点によって掲載するか、取材するかなどが判断されます。活動や行事を客観的な視点で判断される場でもあります。

プレスリリースの提出先は、日頃からリストを作っておくと便利です。イベントや講座開催までのスケジュールの中に、広報についての項目も作っておき、いつ頃プレスリリースするか、チラシの配布を始めるかなどを書いておくと忘れないですね。

媒体と連絡先	注意事項
<p>●読売新聞しが県民情報 TEL：077-522-5602 077-522-5507 FAX：077-522-5589</p>	<p>14万部を毎週火曜日と金曜日に滋賀県内の読売新聞に折り込みで配布しています(年末年始などに休刊する場合があります)。情報告知等の掲載は希望日の1か月前までに。取材希望などはさらに余裕をもってご連絡ください。問い合わせをさせていただく場合でも掲載の確約はできませんのでご了承ください。</p>
<p>●朝日新聞あいあい AI 滋賀 TEL：077-510-5081 FAX：077-510-5085</p>	<p>12万部を毎週水曜日に滋賀県内の朝日新聞に折り込みで配布しています。情報提供はファックスでも結構です。イベントをPRする情報要約とチラシが開催要項を掲載希望の1か月前までにお送りください。</p>
<p>●リビング滋賀・こがも通信 TEL：077-526-1521 FAX：077-526-1525</p>	<p>リビング滋賀は15万部強を毎週金曜日に戸別配布。こがも通信は6万5千部を毎月第1・3土曜日に日刊紙折込みで配布しています。情報提供は、開催の1か月以上前から遅くとも半月前にはお送りください。ファックスの件名に「資料提供」あるいは「編集部あて」と明記してください。実施団体のPRポイントもあれば記載を。</p>

## 座談会

# 「子育て支援を市民の手で」

滋賀県は出生率が近畿で1位、全国でも3位です。滋賀県には、親が安心して子育てできる地域づくりや地域で子育てを支える取り組みがたくさんあります。市民による子育て支援は、地域の特性を活かし、住民のニーズに合わせた活動として、ますます期待が高まっています。そこで今回は、県内でユニークな活動を展開している3団体の方からお話をお聞きしました。

### 参加者

- ◆福井久美子さん  
NPO法人NPOほぼハウス／彦根市
- ◆他谷恵津子さん  
NPO法人子育てネットワーク志賀うりぼう／大津市
- ◆北浦雅子さん  
保育ルームマミーズチルドレン／東近江市  
コーディネーター
- ◆松原洋介さん  
風の子保育園、大津市地域子育て支援センター

**松原** 活動を始められた動機を教えてください。

**福井** 一九九九年に介護保険制度が導入され、この制度が市民にどう関わられるかを仲間と勉強していました。その中で自分たちが受けたと思うサービスを提供できることを知り、他の法人や企業の福祉サービスの底上げができたから、という思いで高齢者を支援するNPOほぼハウスを設立しました。また以前、幼児に関わる仕事をしていて、親も子どもと関わる力が弱くなっていることが気になっていたので、次世代を担う子ども達に関わる事業をしたいと、親子教室ほぼクラブも立ち上げ、高齢者と子どもにかかわる事業を始めました。



●プロフィール●  
**福井久美子さん**  
特定非営利活動法人  
NPO ほぼハウス副理事長

介護保険制度導入時に制度について勉強してきた仲間と任意団体「NPO ほぼハウス」を立ち上げ、居宅支援事業を開始。その一方で、子育て支援部を立ち上げ、「親子教室ほぼクラブ」を開催。2006年度より彦根市北老人福祉センター「ハビネスひこね」館長に就任。2007年度より「ほぼハウス」施設長。

**北浦** 私がマミーズチルドレンを始めたいきっかけは、自分が子どもを持って、ちょっと用事で出かけた時、ひとりの時間を持ちたい時に、私は夫の両親と同居です。親に預かってもらうことができ、助かりました。お母さんは、どうされているんだろうと。思ったことが始まりでした。調べてみると当時滋賀には託児所や無認可保育園がほとんどなかったのです。それなら自分でしようと、自宅を開放して託児所をスタートしました。子育て中のお母さんの手助けがしたいという思いで続けてきています。

が、助かりました。お母さんは、どうされているんだろうと。思ったことが始まりでした。調べてみると当時滋賀には託児所や無認可保育園がほとんどなかったのです。それなら自分でしようと、自宅を開放して託児所をスタートしました。子育て中のお母さんの手助けがしたいという思いで続けてきています。



●プロフィール●  
**他谷恵津子さん**  
特定非営利活動法人  
子育てネットワーク志賀うりぼう

大学で社会福祉学を専攻するが、中学校の社会科教諭として9年間勤務。退職後、出産。中学1年生を初めとする3人の男の子の母親。10年以上にも及ぶ専業主婦時代に育児サークルで活動。文庫活動を経て、子育てネットワークの活動に関わるようになる。現在は特定非営利活動法人子育てネットワーク志賀うりぼうの理事長として、つどいの広場「にっこ」の運営に関わる。

**松原** 滋賀県は環境にも恵まれ、住みやすいと言われ、他府県からの転入が多いのですが、そのため孤立した子育てになりがちです。一方、子育て支援をする団体は、拠点づくりに悩まれるとお聞きしています。場所のこと、家族の理解など、問題をどのように乗り越えてこられたか。

**福井** 私たちは拠点を持てたのが六年前で、それまでは公民館や公園を使ったりしていました。公民館は子どものための施設ではないので、使い勝手が悪かったのですが、当時の館長さんが、必要な人が必要な準備をするよう柔軟に、使いやすいシステムに変えてくださいました。それと同時に、車におもちゃを積み込んだキャラバン隊で、こちらから地

※1 「つどいの広場」は、地域子育て支援拠点事業として、主に乳幼児の親と子どもを対象に、気軽に集まれ、育児相談などでもできる交流の場として市町により設置されています。



●プロフィール●  
北浦雅子さん  
保育ルームマミーズチルドレン

1994年、日野町にある自宅にて、ママの子育てをサポートしたいという思いから、託児ルームを始める。1999年、「保育ルーム マミーズチルドレン」として、東近江市（旧八日市市）に移転。地域に根ざした誰でも利用できる園づくりを目指している。一女二男の母。

**福井** 福祉サービスを主体として、誰もがふれあい、交流できる場を目指して、高齢者の通所デイサービス、宅老機能、児童デイサービス、日中一時支援事業、認可外保育とい

**北浦** 東近江市近辺には工場がたくさんあって、ブラジルやペルーから来た人がたくさん働いていますので、私の保育園では、外国籍の子どもの受け入れもしています。言葉の問題がありますが、四歳から五歳ぐらいまでの子どもは、言葉が

話せなくても、身振り手振りで通じ合うことができ、あまり支障はありません。お母さんは勤務先の通訳ができる方と一緒に来られ、お伝えしたいことはその人を通して伝えていきます。皆さん片言でも話そうと努力しておられます。でも食べ物や育児の習慣にお困りが出ていて、例えば三歳児になってもまだミルクを飲ませてたりということもありますね。

域に出向き、地域で参加者がつながれるようなやり方もしてきました。これは拠点がなかったからできたことなんです。ね。お金もかかりましたが、知恵と工夫で乗り越えてきました。家族は応援してくれました。子どもも活動は理解をし、時にはともに活動してくれます。

**他谷** 私たちも、実績がないと大津市の「つどいの広場」の受託ができなかったのですが、最初の一年はいろんな場所を借りて活動しました。子育てサークルの多くは町内の自治会館を利用して活動していましたが、地域外の人が活動に加わると使えなくなるという問題が出てきて、とりあえず場所の確保が最優先課題になっていました。場所とお金がいずれも問題になっていましたね。子育て支援というより、自分たちのためにこれまで活動を続けてきました。家族には、周囲の人が「よくやっているな」と言ってくれていたことで、より理解が得られるようになり、

助かりました。子どもたちは、私の活動を見てくれるせいか、学校でよく似たことをしています(笑)。

**北浦** いろんな方のご縁のおかげで保育園用の施設を建てるのができ、現在に至っています。自宅で託児所を始める時は、人の命を預かることなので、家族からは大丈夫かと心配の声が出ました。だから無理せずに自分のできる範囲でやってきましたが、四、五年続けて何とかやっていっているなど理解してくれるようになりました。十年たつて託児を求めているとのつながりが広がり、地域に根づいてきました。強い思いがあれば場所や人は後から整ってくるという気がします。

**松原** それぞれ特色のある活動をしておられますね。

**松原** 福祉サービスは、人の命を預かることなので、家族からは大丈夫かと心配の声が出ました。だから無理せずに自分のできる範囲でやってきましたが、四、五年続けて何とかやっていっているなど理解してくれるようになりました。十年たつて託児を求めているとのつながりが広がり、地域に根づいてきました。強い思いがあれば場所や人は後から整ってくるという気がします。

**福井** 福祉サービスを主体として、誰もがふれあい、交流できる場を目指して、高齢者の通所デイサービス、宅老機能、児童デイサービス、日中一時支援事業、認可外保育とい

う事業をしています。わざわざ課題の解決ができることに関われないか模索してきた結果、どんどん活動が広がってきました。現在は彦根市北老人福祉センターに指定管理者として入っています。ここは異世代交流を目的としたスペースがあり、高齢者と子どもたちともに昔の大きな家族のような交流事業ができたのかと、二〇〇六年から指定管理者となりました。最初はトラブルもありましたが、今は利用者がお互いに見守り、わかりあい、関わりあうようになってきました。それぞれの個を大事にしながら、スタッフが配慮することで、このような交流の場を作っています。

**北浦** 東近江市近辺には工場がたくさんあって、ブラジルやペルーから来た人がたくさん働いていますので、私の保育園では、外国籍の子どもの受け入れもしています。言葉の問題がありますが、四歳から五歳ぐらいまでの子どもは、言葉が



●プロフィール●  
松原洋介さん  
大津市地域子育て支援センター  
風の子保育園  
(子育て支援事業担当)

1982年、風の子保育園に就職、1987年から2年間、京都大学教育学部教育指導講座研修員(子どもの発達と障害児保育について学ぶ)、1994年より、風の子保育園にて地域子育て支援事業を担当、1994年より、滋賀子育てネットワーク事務局長。一男二女の父。

話せなくても、身振り手振りで通じ合うことができ、あまり支障はありません。お母さんは勤務先の通訳ができる方と一緒に来られ、お伝えしたいことはその人を通して伝えていきます。皆さん片言でも話そうと努力しておられます。でも食べ物や育児の習慣にお困りが出ていて、例えば三歳児になってもまだミルクを飲ませてたりということもありますね。

**松原** 他谷さんのところでは、女性の社会参加を応援しているようですが、具体的にどんなことされているのですか。

**他谷** 子どもが幼稚園に入るとお母さんたちはサークル活動から抜けてしまします。そんなお母さんたちに、継続的に子育て支援に関わってもらいたいと思ったのがきっかけです。みなさん経済的な余裕があるわけではないので、時間があればボランティアより仕事をしたいというのが本音です。地域や子育てにも関われないかなど考えていたところ、実はお母さんの中には、行政書士や簿記、保育士など様々な資格や特技を持っている方、いろんな職に就いて経験を積んできた方がおられることに気づきました。地域にはまだまだ人材が埋もれています。子育て中のお母さんなら子どもを保育すること、各自の技術や特技を活かした講座を開いてもらうことができるのではないかと

と、お母さん講座の取り組みを始めました。また、保育サポートという仕事を通して、子育てをした経験もまたキャリアになり得るということに気付いて欲しいと思っています。

**松原** 皆さんの活動を振り返って、市民が子育て支援をしていく意義、役割についてお聞かせいただきたいのですが。

**北浦** なかなか他の子どもと関わる機会がないというお母さんもおられ、そういったお母さんと子どもが気軽に寄れる場づくりを今後も工夫していかなければと思います。園では近くの病院のデイケアサービスに来られる高齢者と子どもとの交流会も行っています。子どもも高齢者も、触れ合うことで表情ががらっと変わります。手芸クラブの高齢者が、園児のためにおもちゃを作ってくれたり、子どもが遊んでいる姿を見て、本当に涙を流して喜んでおられます。私たちもありがたいですし、高齢者にとっても生きがいになっています。園内だけにとどまらない、地域との交流が子どもたちにも良いつながりになっていくんじゃないかと思います。子育て中のお母さんには、「ひとりじゃないよ。少し手を伸ばして、つながりを持てば楽しいよ」と声をかけたいですね。

**福井** 私たちは人と関わるといことが大切だと思って活動をしています。子育て

で支援が重要だと言われますが、過剰なサービスは必要ないと思っています。親がゆつくりできる場は必要なんです。親ひとりの親として、自分の子どもに対しては親が踏ん張らないといけない、また親でないと踏ん張れないということもあるのです。他の場面では手助けができることもあり、支えられ、また支え手になれる人間関係の構築が必要だと思っています。地域の中で子育て支援にさまざまな関わってくれる人をつかむ、コーディネート役を果たしたいですね。子育て支援の場で、他の人が自分の子どもと関わるのを見ながら、自分の子育てを振り返って何かに気づく場にもなればと



① 大津市の木戸市民センターで「つどいの広場にじっこ」を運営しているNPO法人子育てネットワーク志賀うりぼう② 高齢者支援と子育て支援を組み合わせるNPO法人NPOぼぼハウス③ できることから始め、地域とのつながりも増えてきた保育ルームマミィーズチルドレン

思っています。

**他谷** 私たちは今、里山保育をやっていますが、これは三年保育がなくなるといいう時に、子どもが三歳になったら集団で生活させたいというお母さんたちのニーズに応えようと思ったことがきっかけでした。せっかく自然が豊かな場所にあるからと環境に関わるようになり、大学や他の団体とのつながりができました。ニーズに答えているうちに新しい形が出来てくる。市民活動というのはそこに魅力があるのではないかと私は思います。

ニーズに答えていけば、絶対に人は集まります。民間団体の気安さで、私たちは柔軟にやり方を変えることができますし、結果にとらわれず継続することもできます。これは市民でする

強みでもあるし、面白いところだと思います。

**松原** 市民による子育て支援の活動は、地域や周囲のニーズに沿った活動をできるのが、大きな特徴なんです。そして活動の中では、いろんな世代の市民の意識や感覚を大切にしておられると感じました。

お話を聞きしていて、市民による子育て支援が、地域のさまざまな世代や組織をつなげる大切な役割を担っていると感じました。また、「そのアイデア面白いですね、うちでもやってみようかな」「その場合、バザーをやってみてはどうですか」など、座談会がみなさんの出会いと交流の場にもなったようです。今後、子育て支援団体などのつながりを広げる機会をつくり、市民による子育て支援を応援したいと思っています。

話

## 特定非営利活動法人 滋賀県難病連絡協議会(大津)

輪

# NPOの わっ WA

和

話

地域や社会を良くしていきたいと  
がんばっている市民活動・NPOを紹介します。  
興味を持たれた団体に連絡してみませんか？

### おうみネットを一緒に作りませんか？

おうみネットサポーターを随時募集しています。  
興味のある方はセンターまでお問い合わせください。

このコーナーは「おうみネット」発行をサポートする「おうみネットサポーター」が市民活動団体・NPOの情報提供から取材・執筆までを行っています。

話



●滋賀県難病連絡協議会の  
2008年10月12日(日)西  
武大津店・パルコ周辺での  
全国一斉国会請願行動時の  
参加者で撮った一コマ

輪



●甲賀の環境・里山元気会  
で子どもたちに大人気の  
ロープ滑り

和



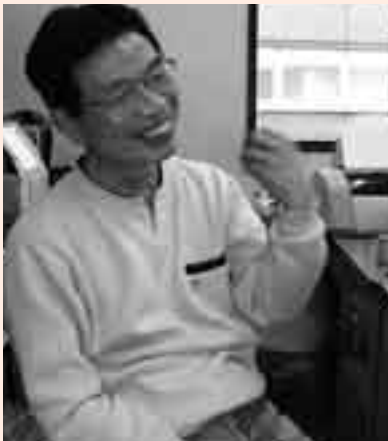
●幼稚園児による水田へのフ  
ナ放流の様子。「元気に卵  
を産んでね!!」

### 難病患者に優しい「光」を 社会と歩む命の絆

「難病患者のつらさ、生きづらさを取り除きたい」。そう語るのは滋賀県難病連絡協議会の常務理事・葛城貞三さん。葛城さんはご家族が難病を患い、長年にわたり原因不明の病と向き合い続けてこられました。

滋賀県難病連絡協議会は一九八四年に六疾病団体五六五名の構成員によって設立されました。当時、スモンや膠原病の患者団体が活動資金不足のため行政に支援を求めました。しかし、難病はそれだけではなく、一団体への支援はできないと言われ、難病患者の横のつながりが必要だと感じたことがきっかけになったそうです。

その後、二〇〇一年にNPO法人を取



▲お話を伺った葛城さん。専務理事や事務局として25年間、難病患者と関わってこられました。(京都新聞提供)

得し、二〇〇二年には難病患者の大きな課題でもある就労の確保のために「しがなんれん作業所」が開所されました。新聞の折込み作業等で「働くことの大切さ」を実感できる場所になっています。ま

た、昨年は全国で初めて県議会に滋賀県難病対策推進議員連盟が発足しました。患者や病院の実態が把握され、療養生活改善への道が一步開かれたのです。日本難病・疾病団体協議会の入れ歯リサイクルにも積極的に取り組んでいます。この益金は、難病患者だけでなくユニセフを通じて世界の恵まれない子どもたちの支援にもなります。

「滋賀県からすべての障害の存在を地域発信したい。」福祉の充実した地域を目指し、聡明な夢を語る葛城さんの目は輝き、とても頼もしく感じられました。来月ピアザ淡海で『来て、見て、知って』難病のつどい「一〇・三」が開催されます。難病患者や多くの県民の方々が参加し、難病への理解を深める良い機会になることを願っています。

(おうみネットサポーター 吉田遊介)

### 特定非営利活動法人 滋賀県難病連絡協議会

代表●駒阪博康 会員●2,314名 設立●1984年  
連絡先●〒520-0044 大津市京町四丁目3-28  
滋賀県厚生会館 別館2階  
TEL・FAX：077-510-0703  
E-mail：siga-nanren@kvd.biglobe.ne.jp  
URL：http://www.geocities.jp/shigananren



▲チラシの折り込み作業の様子

### 水口の里山に「ツリーハウス」発見！

水口の工業団地から少しわき道へ入ると「甲賀の環境・里山元気会」の看板があります。林の中へ続く小道を行くと突然、小さな煙や口グハウスの立つ広場が視界に飛び込んできました。

この会は、二〇〇四年に設立され、ザリガニ釣り、きのこ観察、どんぐり工作など、主に保育園や幼稚園の園児を受け入れて四季折々の里山遊びをしています。子どもたちは、帰る時間も忘れて遊んでいるそうです。この七月に完成したばかりの里山のシンボルでもある「ツリーハウス」は、自然のオリジナルな空間を楽しむツールとして注目を集めています。



▲里山のシンボル、ツリーハウス。

廃材などを利用して、会員みんなで力を合わせて完成しました。

活動は、月二回、子どもたちが思いっきり里山遊びを楽しめる素晴らしい空間を作るために、林の整備や畑の手入れをしています。主なメンバーはこの地域のご出身。子ども頃、この里山で薪を取り、遊び、さまざまなことを学んでこられたそうです。今は、里山の遊歩道の拡張や秋に

子どもたちと芋掘りをする畑の世話などで、足繁く通っておられます。

この里山がどんな風になってほしいですか？と質問かけに、「マツタケが昔の様にたくさん取れる山にしたい」「たくさんの方に遊びにきてほしい。そして、こんな里山とのつながりがあちこちで増えて欲しい」と、目を細めながら夢を語ってくださいました。

明るい林の中に立つツリーハウスのデッキで耳をすますと、セミや野鳥の鳴き声が聞こえ、時折風のそよそよと音が出てきて、いつまでもゆったりしていたいと感じる、そんな空間です。子どもたちを里山で遊ばせたいとお考えの保育園・幼稚園さん、ぜひご連絡ください。  
(おうみネットサポーター 香林美由起)



▲里山にもう一度子どもたちの声を響かせたいと活動しています。

### 「命をつなぐ」サポーター 琵琶湖と田んぼのかけ橋「水田魚道」をつくりま

皆さんは、田んぼで産卵をする魚をご存知ですか？フナ寿司の原料となるニゴロブナやナマス、コイ等の琵琶湖在来魚は、普段は琵琶湖にいますが、田植えの終わった頃に水路を伝って田んぼへとやってくる。そして産卵が済むと、卵を田んぼに残して、再び琵琶湖へと戻っていきます。



▲近江八幡市・西の湖にある飛び地の田んぼ「権座」に設置した水田魚道。

現代は昔に比べて田んぼ・排水路・琵琶湖の間に水位差があるため、NPO法人旅

するおさかなサポーターは、田んぼと琵琶湖の間に魚が通れる魚道を設置して、魚の旅をサポートしています。また子どもたちと、魚の観察や放流等の環境学習をおこなっています。親魚は命がけで田んぼにたどりつき、数万匹うまれた稚魚のうち、育つのはほんの数匹。理事長の前川さんは「旅するお魚」の学習を通じて、子どもたちに命の尊さを伝え続けています。さらに、田んぼに魚や子どもが集まることで、農家の方の農薬の使用量が自然と抑えられ、私たちの安全な食へとつながっているそうです。

水田魚道は「命をつなぐ」。それは魚の命というだけではなく、すべての生命の尊さ、自然や食べもの大切さについて、次の世代の子ども達へとつないでいくという意味を含んでいます。  
取材の日は、グループが活動をおこなっている湖北町の野田沼を訪れました。そこでは環境省と連携しながら、ブラックバスやブルーギル等の外来魚の侵入を防いだり、魚道の設置等の活動を行っています。その結果、在来魚が安心して遡上し、産卵ができるような環境が整いつつあるそうです。  
グループの今後の目標は、野田沼と周辺の田んぼで実現してきた、在来魚が安心して産卵できるような環境づくりの活動を、琵琶湖一円へと広げていくこと。「命をつなぐ」サポーターの活動はまだ続きま



▲小学生による親魚放流の様子。命の尊さを次世代に伝えます。

特定非営利活動法人  
旅するおさかなサポーター  
代表●前川学 会員●60名  
設立●2008年  
連絡先●東浅井郡湖北町尾上110番地4  
TEL：090-7105-0969  
E-mail：tabiuojapan@yahoo.co.jp  
URL：http://blogs.yahoo.co.jp/tabiuojapan


特定非営利活動法人  
甲賀の環境・里山元気会  
代表●松本源吉  
設立●2004年 会員●36名  
連絡先●甲賀市水口町松尾362-22  
TEL&FAX：0748-62-5252  
E-mail：genkikai21@nifty.com  
URL：http://minnagenkikai.cocolog-nifty.com/blog/




## 市民活動、NPO 運営のご相談 いつでもどうぞ!

市民活動、NPO の運営についてご相談を受け付けています。お電話、メール、直接お越しいただいても結構です。ご相談お待ちしております。

### ●最近の相談事例

 NPO 法人を運営していますが、収益事業を始めます。また事務局員も雇用したいと考えています。法人税について、給与にかかる税金について、相談をしたい。

 税金については、専門家のアドバイスを受けることをお勧めします。滋賀県内で NPO 法人の運営に詳しい税理士、NPO 法人の経営支援を行う NPO 法人もありますので、日頃からご相談されると良いでしょう。また、当センターでも年 1 回、会計講座と経理、税務についての個別相談会を行っておりますので、ご利用ください。

また、淡海ネットワークセンターでは、市民活動や地域づくりに関しての相談が幅広く寄せられており、行政や企業、各種団体からのご相談にも対応しています。先日は、製造部門が滋賀県にある大手企業の CSR 担当の方がセンターに来られました。滋賀県に製造部門があるので、滋賀県でも社会貢献活動を展開していきたい。他県ではそれなりの実績はあるものの、滋賀県の現状がよくわからないので、教えてほしいということでした。滋賀県の社会経済の現状や地域が抱えている問題に関して説明した後、多文化共生、生物多様性、NPO の基盤強化に関して、この企業ならではの支援の実現可能性についてお話をしました。すぐに解決できるものではないので、今後も継続してご相談を受けていきたいと思っています。

市民活動団体以外の方もお気軽にご相談ください。

## 「おうみ NPO 活動基金 2010」 助成事業募集のご案内

今回募集する「おうみ NPO 活動基金 2010」では、「ステップアップ助成」と「アイデア助成」の 2 つの区分により、資金面だけでなく、情報発信や組織マネジメント、他の組織への橋渡しなどで、淡海ネットワークセンターが NPO の事業と経営力強化を支援します。

新たな取り組みでステップアップを図りたい、活動を一歩前進させるためのユニークなアイデアをかたちにしたいなど、活動を発展させる意欲をお持ちの NPO のみなさん、奮ってご応募ください。

※詳しくは、ホームページ及び募集要項をご覧ください。

- ◆助成申請受付期間：10月3日(土)～17日(土) 17時必着
- ◆以下により募集説明会を開催しますので、ご参加ください。
- 日時：9月26日(土) 10:00～11:30
- 場所：草津市立まちづくりセンター 306会議室
- 日時：9月27日(日) 14:00～15:30
- 場所：米原市米原公民館 研修室 3A
- 日時：9月29日(火) 18:30～20:00
- 場所：淡海ネットワークセンター

## 第7回(2009年) 「おうみ NPO 活動基金助成事業」 中間報告会開催のお知らせ

第7回おうみ NPO 活動基金助成事業の中間報告会を下記により開催します。採択された 13 団体が、取り組み状況や課題などを報告し、基金運営委員からアドバイスを受けます。公開で開催しますので、お越しください。

- ◆日時：10月3日(土) 12:45～17:00
- ◆場所：県民交流センター (ピアザ淡海) 207 会議室

## おうみ未来塾活動発表会

おうみ未来塾は、地域の課題解決に取り組む「地域プロデューサー」を目指して、滋賀県のような地域でまちづくりなど市民による活動を学び、2 年目にはグループ活動としてフィールドに入り、地域の課題に取り組みます。今回は、2 年目を迎える 10 期生のグループ活動発表会に加え、各地域で活躍している卒業生の活動発表会を行います。「地域プロデューサー」を目指すおうみ未来塾生の発表から地域づくりや市民活動を進めるヒントを見つけに来てください。

- ◆日時：10月10日(土) 12:50～16:45
- ◆場所：コラボしが 21 大会議室 A・B

## 市民活動・人・企業との 出会い広がる 情報交流誌「おうみネット」 掲載広告募集中!

情報交流誌おうみネットは、滋賀県内外の市民活動事例や市民活動のお役立ち情報を掲載し、隔月、10,000 部を発行しております。配布先は、登録団体・個人・企業・公共施設など県内外あわせて約 1,800 力所です。市民活動に関心をお持ちの多くの方にご愛読いただいております。広告掲載にご活用ください。

- ◆一枠(横 5.7～18.6cm × 縦 3.5cm)  
10,000 円～30,000 円

詳細は当センターまでお問い合わせください。

## 淡海ネットワークセンター

(財)淡海文化振興財団

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPO をサポート・ネットワークしています。

■〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20 ピアザ淡海 2 階

■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442

■http://www.ohmi-net.com

■E-mail:office@ohmi-net.com

開館時間 / 9:00～17:00 休館日 / 月曜日・祝日

●情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。

県内図書館、琵琶湖博物館、男女共同参画センター、文化産業交流会館、陶芸の森、草津市立まちづくりセンター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、栗東芸術文化会館さくら、滋賀銀行、びわこ銀行、滋賀県信用組合、公民館、各地域環境総合事務所、県民情報室など

## 編集後記

● 難病と闘う患者さんやご家族、そして支援される方々のことを知り、難病への認識と連帯の大切さを感じました。今回お話を聞いた葛城さんの明るく、朗らかな人柄が患者さんの希望へとつながっているように思いました。  
 (おうみネットサポーター 吉田遊介)

● ツリハウスがとても素敵な場所でした。おとな、子どもにとっても隠れ家のような、居場所でもあるような、そんなゆったりとした時が流れるのを感じることが出来る場所でもあります。  
 (おうみネットサポーター 香林美由起)

● 以前、友人に連れられて深夜の田んぼでナマズの産卵を見ました。響く水音、月光に照らされた生命の営みはとても神秘的なものでした。琵琶湖と田んぼ、魚と私たち、みんなつながっているのだと、取材を通じて改めて感じました。  
 (おうみネットサポーター 高峯陽子)

## ステーション募集！地域の方々の食の調達をコープしがと一緒に協働しませんか？

【地域ステーションとは？】 現在、滋賀県下で 440 力所の事業主さんにご協力頂いています。

◎「近くにお店がないから買い物不便」「安全・安心な食品がほしい」こんな声にお役に立てれば・・・

■事業主さんの事務所や店舗の一角をお借りして、地域の方々へ「食」を提供するシステムです。

■事業主さんへは、コープしがからステーション手数料をお支払いします。

☆詳細は・・・http://www.pak2.com/ コープしがホームページ 地域ステーションをごらんください。

☆お問い合わせ：生活協同組合コープしが無店舗運営部 TEL.077-586-4849 寺田・渡辺、まで

